

新春公演向け稽古に熱気

29日 播州歌舞伎有観客で3年ぶり

多可 伝統芸能の播州歌舞伎を受け継ぐ「多可町播州歌舞伎クラブ」が29日、同町中区中村町の町文化会館ベルディーホールで新春公演を行う。演目は仮名手本忠臣蔵の七段目「祇園一力茶屋の場」。物語はお軽と平右衛門のきょうだいを中心となり、時にほのぼの、時に緊迫感のあるやりとりが繰り広げられる。新型コロナウイルスの影響で観客の前で上演するのは3年ぶりで、クラブ員約20人が熱のこもった稽古を重ねている。
(伊田雄馬)



「祇園一力茶屋の場」のワンシーンを練習するクラブ員＝多可町中区茂利

同クラブは「中町北小学校播州歌舞伎クラブ」を前身とし、対象を一般の町民にも広げる形で1994年に発足。播州歌舞伎の伝承と普及、後進の育成に取り組んでいる。

クラブは代表の山根加織さん(41)を筆頭に、10、40代の女性を中心。大星由良之助を除き、平右衛門ら男性の役も女性が演じ、所作や声で男性らしさを演じ分ける。

毎週金曜夜、同区茂利の中コミュニティプラザで稽古し、本番前最後となる20日は、山根さんら主要キャストが衣装を身に着けて演技の最終確認をした。

播州歌舞伎の特徴は、所作の派手さや観客の反応に合わせたアドリブにあるとされる。山根さんは「3年ぶりの有観客公演。見に来てもらうからには、客の反応を楽しみたい」と話す。

中町中学校2年のクラブ員、橋本佳歩さん(14)は小学4年生から所属。今回は密偵の「黒衣」役を与えら

れ、週2回の自主練習も欠かさずに参加している。「本番の化粧や衣装をまとうと、さらに役に入り込める」と思う」と信じ、当日まで演技を磨く。

とろはま 小野店
0794-6211001

29日午後1時半開演。高校生以上千円、小中学生500円(未就学児は無料)。町子ども未来課0795-32・2385